

食品栄養科学部 環境生命科学科

氏名	研究室	講義タイトル	講義内容	講義番号
谷 晃 (教授)	植物環境	野菜工場の現状と工場産野菜の安全性	現在注目されている、野菜を工場的に生産する植物工場の現状と、そこで生産される野菜の安全性について解説します。	E1
		気象予報士のお天気講座—気象災害から身を守る—	気象予報士でもある講演者が、警報・注意報等防災上の留意点と、静岡の地形と気象の関係、温暖化による気候・気象の変動、について説明します。また、気象予報士の仕事や資格試験について簡単に紹介します。	E2
雨谷 敬史 (教授)	大気環境	環境中のPM2.5について	PM2.5の発生源、健康影響などについて最新の知見を紹介いたします。	E3
		地球温暖化研究の現状	地球温暖化説は今どうなっているのかについて紹介いたします。	E4
伊吹 裕子 (教授)	光環境生命科学	日に焼けると皮がむけるのはなぜ？ —紫外線から身を守る精巧なプログラム	日焼けをした後皮が剥けるのは、紫外線により傷ついた皮膚細胞が自ら死ぬことで私たちの体を守ろうとしているから。その精密に制御された機構とその制御が崩れた時の危険性についてお話します。	E5
		放射性物質と食品の安全性について	福島原発事故後、放射性物質による食品の汚染が問題になりました。食品摂取による放射線被曝についての考え方を講義します。	E6
小林 亨 (教授)	生態発生遺伝学	脊椎動物で2番目に発見された性決定遺伝子から分かったこと — Dmy 発見物語 —	有性生殖を可能とさせる雌雄性の成り立ちのメカニズム(進化を含む)をメダカの性決定遺伝子Dmyの同定までの道のりと明らかとなった機能の点から解説します。	E7
		生物多様性をもたらす環境要因 — 色や形が異なっても同一種 —	環境要因の発生現象(からだ作り)に及ぼす影響について表現型の多様性(正常、異常)をもたらすメカニズムについて解説します。	E8
谷 幸則 (教授)	環境微生物学	レアメタル資源問題と微生物によるリサイクル	微生物の力を利用した低エネルギー型レアメタルのリサイクルの可能性について講義します。	E9
		湖沼の堆積物レコードから読み取る環境の変化	バイカル湖や浜名湖などから採取した堆積物から環境の変化を読み取る研究を紹介いたします。	E10
牧野 正和 (教授)	物性化学	殺虫剤は何故効くのか？	昆虫にスプレー式殺虫剤を噴射すると動きが取れなくなる。この理由を神経伝達の仕組みと併せて説明します。	E11
		果実と残留農薬(副題:ウシの角とシカの角とサイの角)	リンゴと柿では食べている部分が厳密には異なる。果実の分類と農薬の残留性を過去の事例と併せて説明します。	E12
原 清敬 (准教授)	環境工学	微生物によるものづくり	医薬品などの有用物質をつくる微生物が、土などの自然環境から多く発見されています。これら微生物を改良し、最適な環境で育て、その能力を最大限に引き伸ばす発酵工学についてお話します。	E13
		バイオマスからのものづくり	化石資源から様々な物質を生産している現在の石油依存社会の転換を目指し、持続可能資源であるバイオマスから様々な物質を生産するバイオマス)リファイナリーについてお話します。	E14
田村 謙太郎 (准教授)	環境生理学	植物の生き方	植物達は様々な方法で刻々と変化する周りの環境に適応して生きています。彼らの忙しい細胞の中について解説します。	E15
		植物の生体防御—害虫との戦い	植物が害虫から身を守る様々な方法を紹介します。	E16
永井 大介 (准教授)	グリーンケミストリー	身の周りにあるプラスチック	身の周りにあるプラスチック(高分子材料)を紹介し、どのような機能を示すかを解説します。	E17
		環境問題や資源問題に貢献するエコマテリアル	地球温暖化問題やレアメタルなど資源枯渇問題を解決するために開発されたエコマテリアルについて解説します。	E18
内田 邦敏 (准教授)	生体機能学	生物が温度を感じる仕組み—唐辛子を食べるとなぜ暑いと感じるのか？—	生物がもつ生体温度センサーは唐辛子の辛み物質やミントの冷感物質のセンサーでもあります。この講義では、生物が持つ温度センサー分子(TRPチャネル)について紹介し、生物が温度を感じる仕組みについてお話します。	E19
		体温を調節する仕組み	ヒトは大きな環境温度変化の中で体温を一定に維持している。この講義では、体温を維持する仕組みと発熱の意義についてお話します。また、様々な生物の体温調節の仕組みや温度を利用した生存戦略について紹介いたします。	E20
唐木 晋一郎 (助教)	環境生理学	体外環境と体内環境	生物、特に動物は地球上の多様かつ刻々と変化する環境の中で、体内の環境をある一定に維持する体の仕組み—ホメオスタシス(恒常性)—によって、その生命を維持しています。本講義では、このような体の仕組みを解説します。	E21
		腸内環境と健康	消化管の「管」の中は、生体にとっては実は「体外」であり、100超個もの細菌による「腸内環境」という生態系が存在しています。本講義では、腸内環境が私たちの健康に与える影響について解説します。	E22
小牧 裕佳子 (助教)	光環境生命科学	水はどこから来てどこに行くのか？	水道から出てくる水はどこから来ているのか？どんな処理がされているのか？流れていった水はどう処理されるのか？科学的背景も絡めながら上水・下水処理についてお話します。	E23
徳村 雅弘 (助教)	物性化学	排水処理技術の基礎	現在使われている排水処理方法から研究段階の新しい排水処理技術まで、原理などを分かりやすく紹介します。	E24
		身の回りの反応速度論	身の回りの現象を例に挙げながら、反応速度論の基礎について感覚的にわかるよう簡単にご説明します。	E25
三宅 祐一 (助教)	大気環境	微量有害化学物質の環境動態と削減対策技術	ゴミ焼却に伴い排出される物質を例に、環境中での動きを予測する方法(シミュレーション技術)を紹介し、その排出量を削減できる技術についても紹介します。	E26
		化学物質の曝露量と健康へのリスク	日々、非常に多くの化学物質に曝(さら)されています。これら化学物質の曝露量と健康リスクとの関係についてお話します。	E27
菊川 寛史 (助教)	環境工学	ヒトの生活にある微生物	自然界には様々なところに微生物がいて、ヒトはそれらと共存し、ときに彼らを利用しています。微生物のプラス面をメインにお話します。	E28
教員間で調整	—	—	環境生命科学科の教員を希望するが、特定の教員を選択されない場合には、こちらを選択してください。	E29